

## 第201回理事会を開催

### 平成21年度 全連小活動方針等が審議・承認される

第201回理事会が2月17日（火）18日（水）、東京・ホテルフロラシオン青山で開催された。

第1日目は、平成20年度の事業報告と平成21年度の活動方針並びに各部活動案が審議され、第202回理事会への提出が承認された。

第2日目は、各県・各地区の課題についての情報交換と講演会が行われた。ベインキャピタル・ジャパン副会長、経済同友会幹事の山中信義氏による「これからの社会で活躍する人材とは」の講演があった。その後、皇居特別参観を実施し、充実した理事会が終了した。

進行 齋藤 庶務部長

#### 1 開会のことば

荒木田 副会長

#### 2 会長あいさつ（要旨）

池田 会長

第201回理事会の開会に当たり、理事の皆さんに、本年度の活動へのご協力に感謝し、お礼を申し上げます。

本日の理事会は来年度の活動方針等の方向を定めることにおいて重要な会議である。この会議の成功のためにも、この2年間の総括を行い、あいさつにかえたいと考えている。

この2年間、全連小の活動方針を受けて、私のキャッチフレーズは、「経営の基本と原則を生かし、信頼される校長会」ということであった。激動の社会、変革が求められている社会にあって、常に「不易と流行」が求められているが、事柄の本質は不易にあると思うし、その不易の中にこそ基本と原則があると考えた。私たちがかわる学校教育の基本と原則は何か。それは、教育基本法にもある通り、人格の完成と国家社会の形成者をはぐくむことにある。そのための原則は何かというと、人が夢や希望をもって生きていけるようにするために、①認められたい②人の役に立ちたい③学びたい、という欲求を満たして自立できるようにするとともに、

社会に適応することであると思う。ここに学校教育の基本と原則があると思う。

経営の基本と原則、言い換えればマネジメントの基本と原則は、今述べたことそのものではない。教育改革国民会議で述べられた「学校運営を改善するためには、現行体制のまま校長の権限を強くしても大きな効果は期待できない。学校に組織マネジメントの発想を導入し、校長が独自性とリーダーシップを発揮できるようにする。」ことを強く意識したことにある。現代は組織社会が原則である。その組織がうまく機能しなくては成果を上げることができない。また、校長が組織のマネージャーとして何を抛り所にして成果を示すかということに力点を置いたのである。校長会の規約に、「職能集団としての資質の向上」が挙げられている。この職能を高めることは、マネジメントを高めることであると考えた。そこで三つの柱を示した。その一つは、学校教育の中核となるのは教育課程の編成・実施・評価である。PDSといっても良いかと思う。あるいはマネジメントサイクルとしてPDCAサイクルを指してもよいかと思う。ここに学校経営の務めがあるとともに仕事があると考えた。二つには、マネジメントは人の実践

を現すことである。仕事の充実が教員の労働に支えられて初めて成果を現す。よい教員を育て、よい授業を提供することが重要である。三つには、子どもの姿で成果を保護者や地域社会の人に示すことである。これは学校が社会的責任を果たしていることの証を子どもの姿の中に見てもらいたいからである。このことが学校への信頼、ひいては経営者としての校長の信頼に結びつくと考えている。

全連小の総括としては、内には組織の機能や職能集団としての資質向上の問題、調査研究活動の新たな外国語活動や食に関する指導の問題等、各方面でその成果が確実に見られた。また、外には条件整備を中心に、各機関に対して要望や要請活動を行ってきた。学習指導要領については保護者への説明をより分かりやすくしていかなければならないと考えている。

以上述べたが、子どもと向き合う時間の確保などの教育諸条件の整備等、充実させていかねばならない課題がある。これらは継続した対策活動になるものと思う。次年度からの移行措置を充実させ、円滑に全面实施ができるようにする調査研究活動も課題となる。全連小事務局の建設工事も皆様の協力により着々と進んでいる。

本日の理事会が、実り多いものになりますようよろしく願います。

### 3 報告

#### (1) 事業・会計報告及び監査報告（中間）

齋藤 庶務部長 太田 会計部長 平田 監事

#### (2) 第60回香川大会について 西川 県事務局長

10/23・24に開催、全国から2,700名の参加を得て成功裡に終了した。全連小池田会長はじめ大会へのご支援ご協力に感謝する。

#### (3) 要望・要請活動について 塩澤 対策部長

昨年12月2日と16日、国会議員131名に21年度予算要望、教育充実・改善要望を行った。また、審議会等（全国学力・学習状況調査、特別支援教育、教員免許更新制等）への意見書を提出した。

#### (4) 全連小ビル新築工事の概要について

- ①通称 全連小ビル
- ②場所 東京都港区西新橋1-22-14
- ③概要 敷地面積83.17m<sup>2</sup> 地上4階、地下1階 延床面積265.79m<sup>2</sup>

#### ④完成予定 平成21年7月末日

#### (5) 広報活動について

青木 広報部長

各県の広報担当と連携し、より充実した広報活動ができるようお願いしたい。また、教育予算が厳しい中、引き続き「小学校時報」「教育研究シリーズ」の購読をお願いしたい。

### 4 議事

議長 西林 副会長

#### (1) 平成21年度全連小活動方針について

##### ※全連小活動方針（案）[概略] 池田 会長

知識基盤社会化やグローバル化が進む今日、教育においても改正教育基本法に基づく学校教育法の改正により、義務教育の目標が定められ、新学習指導要領の移行措置が今年4月より始まる。こうした中「生きる力」をはぐくむ教育のための教育課程の編成・実施・評価・改善や移行措置の推進が求められており、校長は権限と責任のもとにリーダーシップを発揮し、教員の力量を高め、活力ある学校づくりに努めていかなければならない。21年度は、下記の活動を重点として推進する。

- ① 研究活動の充実
- ② 学校経営の充実
- ③ 「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成・実施・評価・改善
- ④ 教職員の資質・能力の向上
- ⑤ 教職員の処遇改善

〈第202回理事会への提案を承認〉

##### ※対策・調査研究・広報の各部活動(案)[概略]

###### 〈対策活動(案)〉

塩澤 対策部長

教育諸条件の整備を促進し、小学校教育の一層の充実・向上を図る。その上で公立小学校教職員定数の改善を求め、子ども一人一人に確かな学力をはぐくむ活力ある学校を目指して、下記の対策活動を行う。

- ① 教職員定数、学級編制等の改善
- ② 施設・設備・教材等の整備改善
- ③ 教職員の資質・能力向上のための条件整備
- ④ 学校の自主性・自律性の確立に向けた条件整備
- ⑤ 行財政改革等への対応
- ⑥ 教職員の処遇改善
- ⑦ 退職時及び退職後の処遇改善

- ⑧ 学校週5日制における生涯学習の視点に立った施策の充実
- ⑨ 教科書無償給与制度の堅持
- ⑩ へき地校・小規模校の教育諸条件の整備充実
- ⑪ 家庭・地域社会への啓発・広報活動

〈調査研究活動(案)〉 向山 調査研究部長  
「生きる力」をはぐくむ教育課程の編成と実施・評価及び改善に努めるとともに、子どもと向き合う時間を確保し信頼される学校づくりを進めるために、次の調査研究活動を行う。

- ① 教育改革に関する調査研究
- ② 教育課程の実践的研究
- ③ 教職員研修の充実・推進
- ④ 人権教育の充実・推進
- ⑤ 特別支援教育の充実・推進
- ⑥ 生徒指導・健全育成の充実・推進
- ⑦ 教育改革等への積極的な対応
- ⑧ 全連小研究協議会の推進

〈広報活動(案)〉 青木 広報部長  
各部並びに各都道府県校長会との連携を一層密にし、併せて広く小学校教育振興のための世論の喚起を目指して、下記の広報活動を行う。

- ① 全連小活動に関する敏速・正確な情報の提供
- ② 学校経営に関する適時・適切な資料及び全連小活動に関する詳細な情報の提供
- ③ 学校経営に関する研究資料の提供
- ④ インターネットによる情報の発信
- ⑤ 情報宣伝活動の一層の充実・推進

〈以上、各部案の第202回理事会への提案を承認〉

## (2) 平成21年度基金会計について【概略】

太田 会計部長  
平成21年度も基金を拠出していただき、利息を有効活用し、全連小の活動が活発に進むようにする。そのため、果実会計の支出項目及び額は、試算表に基づき支出する。なお、この臨時措置は、毎年検討する。

〈承認〉

## 5 連 絡

(1) 第61回熊本大会について 速水 県会長  
会 期 平成21年10月22日(木)23日(金)

開催地 熊本市

(2) 第62回北海道大会について 齊藤 道会長  
会 期 平成22年9月30日(木)10月1日(金)  
開催地 札幌市

(3) 平成21年度全連小海外教育事情視察について 大内 事務局長  
期 日 平成21年7月25日～8月4日  
視察地 ニューージーランド・オーストラリア

## 6 情報交換 司会 金田 常任理事 〈各ブロックからの報告〉

- 北海道ブロック：①札幌市以外は教頭昇任希望者が少なく、他管内より期限付きで教頭を借りているところがある。②教員免許更新制は、北海道は広域なために日帰り研修は難しく、教育大や教委へ対応を求めている。
- 東北ブロック：①新たな職として次年度に副校長を置くという動きが3県、民間校長2名を小学校に配置予定が1県にある。②昨年度より旅費が2分の1に削減という県がある。
- 関東甲信越ブロック：①業務軽量化を3カ年で実施し、子どもと向き合う時間の確保を全国に先駆けて取り組んでいる県がある。②主幹制度・人事考課制度について、実施の動きがある。都では、主任教諭という新たな職の制度が21年度よりスタートする。
- 東海北陸ブロック：①ほとんどの県で、財政困難に伴い教職員給与や補助金等がカットされている。少人数学級や少人数指導員の予算がカットされている県もある。②外国語活動については、小学校のALTの確保が財政的に厳しい状況である。
- 近畿ブロック：①1年生講師・旅費・研究会への補助金の引き上げ等、教育予算が厳しい状況にある。②1年で新規採用教員が退職していく等、若手教員育成に苦慮している県が多い。
- 中国ブロック：①全国学力調査の結果公表については、次年度から請求があれば、学校序列化につながらないように配慮して市町村別・学校別の開示を予定している県がある。②教職員評価システムを4県で実施、新たな職(副校長・主幹・指導教諭)設置に複数県が動いている。

○四国ブロック：①教員採用数が少なく、病休対応の臨時教員も不足している。今後、数年計画で新規採用教員の100名以上の確保の動きが2県にある。②主幹教諭はすでに配置、または次年度から配置という県がある。

○九州ブロック：①新たな職（副校長・主幹・指導教諭）を配置している県がある。県によっては、モデル的に配置し効果を検討している。②教頭・副校長の職務明確化が課題である。

## 7 講演

「これからの社会で活躍する人材とは」(要旨)

ペインキャピタル・ジャパン 副会長

経済同友会 幹事 山中信義氏

まず、世界の景色から話をしたい。家を建てる時は、平地に建てる。平地でも崖の上の平地、波の上の平地などさまざまある。今、忙しさのあまり自分の足下が見えず、自分が立っているところは正しいのかがわからない。自分の足下を超えて視野を広げていかなければならない。たとえば、インドの中間層は5000万人、年収は300万円である。この中の50%の人は使用人をもち1割の人には運転手がいる。2030年には1億5000万人が中間層、実に日本の20倍となり、世界経済の主役になる。世界的な低価格となり給料に跳ね返ってくる時代になってきている。今後日本が伸びていくには無理がある。

日本の国際競争力は2008年度22位である。アジアでは8位、これはどのような意味なのだろうか。経済を語るときは「ヒト・モノ・カネ」である。ヒトは日本に集まっているのか。日本の観光客数は33位、留学生数は東大でも13位である。日本には人が集まらない現状である。モノはどうか。物は、韓国に荷物を下ろしてから日本へ運ばれる。直接日本には入ってこない。それは、コストが韓国の4倍かかるからである。日本に物が集まらないのは、港湾の入国システムに問題がある。では、カネは集まるのか。日本のお金は外国に行き、日本には投資をしてくれない。日本からお金は離れていく。このように未曾有の変化をしている。世界を相手にいかに生きるか。解決策は、過去の延長線ではなくグローバル化を先取りしていくことである。

包丁も使いようである。換言すると知識も使いようである。知識そのものの価値はなくなった。よりよい情報をもっている人が有利である。今後は、情報をいかに使っていくかである。そのような人材をいかに育てるのか。本を読んだり、聞いたり、調べたりではなく、実体験を通し自分の肌で感じていくことである。独創的な中から富が生まれてくる。自分から問題を提起し、解決策を出し、自分で実行する人材（金太郎飴でなく問題解決型）である。企業の採用基準は「面接の結果、筆記、適正検査」である。大切なのは、本人のやる気であり学歴ではない。採用試験では「熱意・意欲、行動力・実行力、協調性」を見る。今後、活躍できる人材は基本を確実に身に付けた人材である。それは、基本ができれば応用が利くからである。

講演会に呼ばれた際、子ども向けに話す内容は、次の6点である。①ポジティブ思考。例えば「コップに水が半分しかない。まだ半分あるんだ。」のどちらを考えるのか。「半分あるんだからこうしよう。」と考えることが大切である。②高い目標をもつこと。夢をもち現状と目標とのギャップをどうしていくのかを考え、マイナス思考でなくプラス思考で得意なものやっていく。③個性を大切に。独自の知恵をもち他人にできない自分をつくるとともに相手を尊重できる社会を目指す。④まず行動。100点を目指すな。現実の世界では70点とれたら走り出す。⑤人生のPDCサイクル。細切れで行動し、常に70点とれているのかをチェックしながら、あきらめずに120%エネルギーに進めていく。⑥ディズニーの名言。何事にも好奇心をもち、あきらめず、継続して感動するまでやる。「できない思考」ではなく、「できる思考」で自分の意志でやりとげることである。

終わりに、教師・親としての仕事は「子どもの夢の達成づくり」である。やるのも決めるのも子ども。我々は子どもに寄り添い①正しい夢づくりの手助け②正しいかどうかのものさしづくりを行うことである。子どもの将来に期待したい能力は「専門知識と経験、卓越した先見性、改革者」である。こんな人材を育てたい。

8 閉会

荒木田 副会長